

ワンヘルス推進のための寄付に感謝



市のワンヘルス事業推進に役立ててほしいと寄付をされた本市出身の中河原四郎さんへ、2月24日、市長から感謝状が授与されました。中河原さんからはこれまでも、故郷へ恩返しをと数々の寄付をいただいています。

初めて触れる楽器にわくわく♪



2月23日、プリヤストン吹奏楽団久留米をゲストに、こどもむけみやまっくす吹奏楽コンサートが開催されました。ステージでの指揮者体験や吹奏楽団の真横で演奏を聞く体験、さまざまな楽器に触れ音を出す体験など、参加した子どもたちは大興奮でした。

ふるさとを舞台に小田監督がメガホン



本市出身の小田憲和監督が監督・脚本を手掛ける、本市が舞台の映画『笑いのソネット』の撮影が、2月28日から3月15日にかけて市内各地で行われ、最終日には、エキストラの市民ら約150人が見守る中、緊張のラストシーンが撮影されました。作品は9月公開予定です。

救急体制の充実強化に役立てて



2月25日、市内在住の平田敏枝さんが、救急体制充実のために役立ててほしいと市消防本部へ寄付をされました。平田さんは「私や家族が救急車で搬送されたことがあり、ずっと恩返ししたいと思っていました。1つの目標が叶いました。」と寄付への思いを話されました。

「学校安全の日」に救命講習を実施



2月26日、「学校安全の日」の取り組みの一環として、瀬高小学校で心肺蘇生・AED講習が行われました。久留米大学病院やココクラ病院、市消防本部の職員を講師に招き、6年生51人が受講。参加児童は、「万が一の時のために、心と技術の準備をしておきたい」と語りました。

400年以上続く豊穰祈願の祭り



3月1日、筑後乃国阿蘇神社で海津御田植祭(市指定無形民俗文化財)が行われました。初春の耕地から秋の収穫までが神事として表現され、早乙女に扮した子どもたちや氏子が「田植え歌」を披露。体験プログラム「つきなみ旅」も開催され、多くの人で賑わいました。

線香花火製作技術が  
県文化財に指定



線香花火製作技術保存会(竹飯)の技術が、花火の歴史と技術を継承する民俗技術として貴重であることから、令和8年3月27日、福岡県無形民俗文化財(民俗技術)に指定されました。

江戸時代から続く  
夏の風物詩「線香花火」

線香花火は、わら素材の「スポ手牡丹」と紙素材の「長手牡丹」の大きく二つに分類されます。特にスポ手牡丹の歴史は古く、江戸時代初期の文献にその名が確認されています。外国産の花火が普及する中、国内で長手牡丹を製作するのは、本市の線香花火製作技術保存会(竹飯)を含む三団体。スポ手牡丹は線香花火製作技術保存会のみが製作しています。



受け継がれる線香花火  
の伝統技術

竹飯地区の花火製造は、文禄元年(一五九二年)、朝鮮出兵から帰国した立花宗茂が竹飯八幡宮に煙火を奉納したことが始まりと伝えられています。筒井家は柳川藩の砲術を担った家系で、明治五年(一八七二年)頃から筒井駒太郎が花火製造を始めたといわれています。駒太郎の長男福松が大正時代に玩具花火を製作するようになり、福松の弟子である筒井時正が、昭和四年(一九二九年)に筒井時正玩具花火製造所を創業。製造技術は二代目の筒井正穂

さんから、三代目で現代表の筒井良太さんに受け継がれました。良太さんは、八女の隈本火工で修行後、道具を受け継ぎ、当製造所で線香花火の製作を開始。そして現在も、その伝統技術を守り継いでいます。




三代目 筒井 良太さん




スポ手牡丹(左)は関西、長手牡丹(右)は関東で流通するようになったといわれています。

みやま市で14件目の  
県指定文化財です

新たな歩みに向けて、2校が閉校

瀬高中学校 

東山中学校 



3月17日、瀬高中学校と東山中学校の閉校式が執り行われました。2校は79年の長い歴史に幕を閉じ、統合された「みやま中学校」として、4月から共に歩みを進めます。

①生徒代表あいさつ ②校旗返納 ③参列する生徒たち



2車線から4車線化でますます便利に



3月22日、国道443号三橋瀬高バイパス4車線化開通式が行われました。今回開通したのは柳川市の県道大和・城島線、水町南交差点から、本市の県道江浦・瀬高線、高柳交差点までの延長約1.8kmで、これにより交通環境の大きな改善が期待されます。

福岡県がコンテナトイレを初設置



防災道の駅に指定されている「道の駅みやま」にコンテナトイレが設置され、3月19日お披露目式が行われました。このトイレは太陽光パネルと水循環処理システムを備えており、電源と水道が不要。トラックでの運搬も可能で、災害時に活用することができます。

吹奏楽の響きを楽しむ演奏会



障がい福祉と触れ合うきっかけを



3月1日、まいピア高田で青少年健全育成スプリングコンサートが開催され、山川中学校吹奏楽部とブリヂストンK2BANDが演奏を披露しました。両団体によるコラボ演奏に加え、会場全体で合唱をする観客参加型の企画も行われ、訪れた観客を楽しませました。

3月7日、みやまの障がい福祉と触れ合おうと題し、サポートみやまが「サガみやdeフェスタ」を開催しました。縁日コーナーや就学前セミナーのほか、リトミック&ダンス体験会では、音に合わせて体を動かし、参加者同士の触れ合いを楽しむ多くの人の姿が見られました。

ペットの命も一緒に守る



3月8日、旧岩田小学校体育館で「ペットと一緒に避難所体験会」が開催され、ペット連れなど約50人が参加しました。認定NPO法人日本レスキュー協会と災害派遣獣医療チーム(VMAT)を講師に、避難所でのペットとの過ごし方や避難スペースの設営などを学びました。

「もしも」に備え、防災体験



2月22日、まいピア高田で防災フェスタが開催され、市民や防災士など約250人が参加しました。「見て、触れて、体験して、もしもに備えよう」をテーマに、避難所の設営体験や防災リュックの中身紹介、非常食の試食会などが行われ、参加者は防災への意識を高めました。

九州の少年剣士たちが白熱の攻防



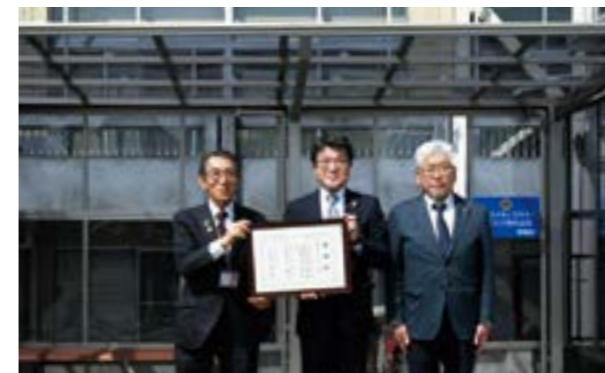
全国大会で活躍した小・中学生を表彰



3月8日、高田体育館で第45回みやま旗争奪九州選抜少年剣道大会が開催され、小学生、中学生各48チーム、600人以上が参加しました。本市からは小学生3チーム、中学生4チームが参加し、レベルの高い熱戦が繰り広げられました。

3月11日、青少年文化・スポーツ表彰式が行われ、全国大会で優秀な成績を収めた田中健翔さん(清水小5年・詩)、北原菜智さん(瀬高3年・ダンス)、筑後リバーズ球団の野田真太郎さん(瀬高3年)、田中來毅さん(山川3年)、江島大翔さん(高田3年)が表彰されました。

本庁舎のバス待合所兼駐輪場が一新



3月17日、瀬高ライオンズクラブから本市に対し、「コミュニティバス待合所兼駐輪場」が寄贈されました。これに伴い、老朽化していた本庁舎の既設待合所兼駐輪場が新装され、市長は「市民の皆さまにより快適にご利用いただくことができます」と感謝を述べました。

長唄の音色を師のふるさとに再び



2月22日、MIYAMAXで「はじめましての長唄ガイド～どんな音？三味線と横笛～」が開催されました。歌舞伎の舞台音楽「長唄」を支えた、本市出身の人間国宝、杵屋勝国さんの遺志を継いだ弟子たちが響かせる音色に、観客たちは聞き入っていました。